古朗讀七部集 中

特
へ利5
3473
2

へ利
3473
2

志からみ草

枇杷園の竹籠か沢
はき合せ[illegible]清のこと
おさう歩へる[illegible]
[illegible]集[illegible]
不卜集[illegible]
[illegible]

慶應義塾大学

[illegible]

嵐山ハ庁[illegible]の[illegible]の竹
[illegible]人ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]端中[illegible]山　士朗
[illegible]時[illegible]　不卜
[illegible]日記[illegible]　鹿野
[illegible]月の[illegible]の峰[illegible]　菊所
[illegible]　岳洛

ウふかうしてとくに浦籠　士朗
遠山寺遠てはかなきこの
家うへうおく柳ふかく　菊所
既に門磨　郎うこの根に浮ゆ　岳輪
り郷の墓九り柳みさこ　鹿野
家と三郎帰せこ持て帰り　不卜
新とのせこ小袴の自　士朗
をの凡笛姿むはのこ　五雄
こ後しこ書うあふ　不卜
枝もおきこ一すと海のこ　士朗
家の家やこ出も浅今よ　岳輪
　　鹿野

名の木葉の朱の百み花を使ひて　菊所
鹿の夢の夢の陳やん　不卜
夢こやき仮こ後のの住遠家　菊所
姉ひう恵こきこのこ有什こ　不卜
夜家の遠使内の家こあり　菊所
日うふ一日　松もよいす　岳輪
森ひこ松ハここ恵の大の　士朗
雪ふかくまここ雑詰もせな　不卜
雪こ雪こ　校のこ人の小袖嵐　岳輪
こてもこうふきこ　帰来の牧　士朗
帰来こ琴　九庵来の著こ　不卜

[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊石
[illegible]　士朗
[illegible]
[illegible]　岳輅
[illegible]の[illegible]　菊所
一年　三月　[illegible]の[illegible]
小屋[illegible]の新の[illegible]
常[illegible]　岳輅
[illegible]　不卜
[illegible]　菊所
嵐山三十六章十六章三句
二十章章二句

初雪を[illegible]の[illegible]と[illegible]　青柳の
[illegible]　微風
[illegible]
初雪の[illegible]　九岳
[illegible]の[illegible]　岳輅
[illegible]の[illegible]　硯静
[illegible]の[illegible]　卓池
小坊主の[illegible]　吐山
青月や[illegible]　椿堂
初雪や朝[illegible]の門　岱呂

雪の日や君の下駄をの音　玄蛙
薪の居ずまひ正月どせよ雪の夕　菊所

初雪九章章三句

柘尾の名残御の志ぞうり海ふ山ふ
我あて先と云ふ雪のうへ人のあとも
贈彼淇奥緑竹猗々
柘尾花ひしとしとる濡れよりも　不卜
ぬと知ーむ雪を雪いと人に柘尾花　梅間
一つ家ハ雪の上ものかき踏ぶ　阿城
先ちくき初雪しうう柘ふ々り　大商

こまうこまうて海ふ雪ふに柘尾花　五道
柘尾の雪ハ有ぬ雪れ尾花　翠川

柘尾花六章章三句

水ふハ涙の岩の名ねの名まこまこまと
勅を風雅ふ古人の心とさうに
つに月日をうしやをとぬいまむ
あるやうしし　ふ仏法ふ
有明や波ふ深雪の雪ふ
ふふの月ふ雪ふ深ぶ
明時や貴ふ勅ふ萩ふ　岳輪
鹿野
士朗
菊所

西風や[illegible]も淡の藤の孫の名　不卜
野ひしの雞[illegible]水の落[illegible]　五雄
水鳥の[illegible]の宿やいつ[illegible]　推巴

水鳥七章章三句

人[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
もせ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
人[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

秋挙
松菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

大藤
湖風
左荘

八間五章一章二句四章章三句

七小所ハ人情と[illegible]の風[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

七小町
竹有

[illegible]秀
駕風

大波の折つ計るおまこぶ　金谷
人待ふ守もうゝ中硬路山　菊所
余吾乃湖の名ふ守のうゝの山の切　士朗
かりうさと撲ふ夫河野のみ雪分　不卜

七小町七章章三句

東西四歌仙

東西四歌仙

山中 磨日かゝ れめつゝ月さゝ 千鶴子 雪 経
堂鈴花香ふ耳国とよろこひしゆたのむ 椎乃
末のむらゝ 丹波ゆゝ大山の人ゝし
椎の香ゝ じすい 親仲の椎の実をむろひゝ
一ゝ ゝいてゝ きかゝり れい月ゆ のゆみ人
の ゝ 松のもゝ れゝ ゝれこの集を
の歌仙 ゝ

安ゝうみ 法風菴申斎述

花茎ゝゝゝ 蓮の蕾ゝ ゝ 椎堂
ゝゝ 蕾ゝ ゝ 白路
ゝ 蕾ゝ ゝ 拙朗
ゝ 蕾ゝ ゝ 武陵
焼ゝ ゝ 東眉
ゝ ゝ ゝ 朗路
ゝ ゝ ゝ 眉陵
ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ

芒ちらし老らまうり
勢峰霞内行の星月晴とけれ　浪朗
あしきみのせゝらぎ月の雪　後眉
瀬金の名は行とまうり沙拂え
ゝらみもいとうれぬ素ゝの蓑　朗
淺ふゝやタゝれの灯とゝゝし　浪
岸のあゝ乱とゝゝ花香　眉
つゝいまあうちゝら自の木葉片　後
素とふゝゝ瀬ゝ内毛夜　浪
三月　夜の月ゝ幸洲の高ふ間して苔門
佛ふちれと木とたゝきゝり　蛍

村ふふ行さはゝりかと除すゝん　戈馬
行ゝゝゝ雨とゝふ　ちゝゝ色　門
月ゝ行ゝゝかさい多ゝゝ多の京　蛍
郭の行ゝし　をかゝゝ色達　馬
笥一人の人内情の国ふ見えゝ　門
枝の行し　社　色八栄　垣　蛍
渉ゝし　稚内金ゝゝゝやり　馬
枝の加　らの春と新こむ　門
ゝ月ゝゝ穂ゝめゝゝ秋ゝし　蛍
苔ゝ岩ゝ記伊の孫数賓　馬
ナウ
小ふゝゝを毎ゝ起ゝゝふ色　門

やはらぐ廣野の草の心畑　豊馬

吹かるる庭の梅の赤ちるを

まつかぜにとはるる人の門　豊馬

ひらひらと昼さへ入るむる花の上

飛ちりぬ新しめの面影　豊馬

生ぬかるる稚ちるこゝも咲ちらん　東眉

未ちるも咲ほてまの蕾

まつぬかるあらのうらくちるあり　白路

梧朗

年紙のよろこぶそよぐれ梅ぬ　東眉

夕風や人の行ぬもちる　白路

陽炎の乃ぬ飛つく雀の車　梧朗

ちるぬ時山ぬの花ぬきり

うくて紙生　省宿と

さきしを自しのとも出つみ

ちつふ甘人ちりちる人を

紙波の糸ぬ雲ぬ岩

のきりに乃のりぬ送り出つ

ちちちくのぬ新ぬうちぬ

うぬ乃未乃れとねむちれ

つくるもの平一橋のわたりにあり
むかしより平家の人の舟のかよ
ひ月隅川まで舟をかくしおの
ひと流三里すてたる山松原
弘法大師文字を彫る松生茂る
つくるもの一ぢつくる時すぐれ奇石
時山石の形し舟をくさすたやは
をれいと法衣をひくしまを
出つゝ或る流れ出ぬ所をとて
岩山の岩大堰川の底に家人
初て藤生のあるちを流る橋と

わたりて都人まうでくるも
遊をつゝして花ふむ人を
百傳へくる
都乃ゑ平ひすといふれる出山
日ぬこまゝ花のうゝを勝の人　武陵

ぢの生ゝ多游平　扶堂
ゝ枝ふかゝる五月ゐの　武陵
朴の木のゝゝも相ふのひゝちて　白路

垣結ひ人とをるる更衣屋　拾朗
笑きしと云うめさきのうぶ水　東眉
神のうんみもきゆるるを目　路
祢の良うゆうやうちうるるの者　陵
砂の数ほく一筋内うち　朗
大うさい人ふ去うれ牧苗の色　眉
うゝやゆ　きハ婢の髭　陵
笠ちゝ月のけうるもきうて　路
やうゝ出ハ青内之　眉
去うゝ淀のふくさと孫ふのせ　朗
陸頭をゆ　のとんぶ　路

ひゝしと新て目とる　船内仮　陵
青菜意と云もも嬉らん　朗
義八のうをを内之なる花咲て　眉
墨うゆきほとふ去内村る　陵
三　為ひ出て切ゆけうる　桃
伊蜜とうんをを人をうる　林
妻し家の抹川のるるり　耕
菓内花形うる羊わるする　圃
を車ふる祖父とのせるるる　浦
ゆうて日ゆ　の縄をりとこす　園
紅朱い舞の事のちるをうり　林
生　生

春こそさき　新の　実方　浦
月遥き　東を　雲の　山ぢ　林
かの　中　ほを　むいて　ぢん　園
相の　ふ　行　ぢ　ぢ　ぢ　七　ぢ　潮
濃まり　ぢ　ぢ　大　二　四　五　人　堂
り　灯　すかき　ぢ　ほ　沈　の　端　園
業　ぢ　ぢ　紀　唐　わ　ぢ　林
れ　ぢ　れ　ぢ　ぢ　を　ぢ　裏　堂
蛇　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　潮
陰　ぢ　ぢ　花　の　末　の　ぢ　の　海　常　菜
松　ハ　毒　と　ふ　く　む　ぢ　ぢ　園

ゆ　ぢ　ぢ　の　晴　ぢ　毒　ぢ　ぢ　ぢ　拙　朗
ぢ　い　ほ　と　月　の　ほ　ぢ　ぢ　く　わ　ぢ　白　路
唐　ぢ　月　の　月　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　赤　眉
延　秋　と　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　茅　陵
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　拙　朗
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
古　ぢ　の　ぢ　ぢ　ぢ　よ　ぢ　月　東　眉
ぢ　ぢ　れ　の　中　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　白　路

清瀧の水を呑て　武陵

水雲の上ふけてさゝ日よりうる　東眉
さゝし汁ふ紅葉の月　成美
そゝ[illegible]とそゝ[illegible]ゆ秋立て　一茶
紅をあうれをすゝ[illegible]ゝ　浙江
あしの手とり垣のうゝ　一飄
雛祭多古の札を立まま　夕臧
へあも札のゆしゆみ札　泪心
栄華中ふ廻のさゝひ　茶
ゝゝ野ゝ神ゝ出へ笹粽　美
あのゝあてゝゝのゝかひ　飄

多小為相物りかつてて帰るらん　江
義をさうりふ書う達つく　函
塩さうふ小潮の月の竹もうみよ　瘋
金一のそはまふ又ゆう丁寧　美
なまこれと垂うきう墓と為素て　茶
大牧養ふ梅うふ　江
蟠蛸の影月ふ安へ　飄
者乃　技持ふ小かるかけろ　瘋
三
小船猪ふ舟を五へ罷引て　武
影うるるるるるぬ人と掃出て　陵
抽いへい牡丹ふ赤ゝ多るる　梧朗
白路

吸うるるるる山のうすの　眉
稱系ハ博の中つまる新ふり　朗
ふ殿のるとえ久ふもせば　陵
り殿と紅の名殘ふりむて　眉
月ふ安青のるハふうる　路
和うふ桃のり　陵
湯にの垣とぬ計う掃廉　朗
修造乃　祥うみう新あし　路
うん船の舷とのてす　眉
高ふ三月乃乃うし蔵う松の燥　朗
翠のふ民ゆう社会影座もふ　陵

近江路のあわつゝ下結ひそめし　眉路

帝ゝ門をまもる佐竹朱　陵

大根の葉もゝ花のうみ　朗

別け日あるのちゝき夫の目

[illegible]　白路

[illegible]　拾朗

大樹をやうゝ[illegible]の川　東眉

稲妻や沼よりひとつはゝ家も　武陵

ひとつはゝ家も[illegible]　白路

ふきくみ止る雪のかゝり　拾朗

ちゝゝれとやゝ[illegible]　東眉

四季へ好人を[illegible]の月　武陵

青しやうゝ火ひゝつ秋の風　白路

かつちゝと行きひ[illegible]　拾朗

稲妻や拾ふ[illegible]　東眉

[illegible]うけて日ハ二度ふ萩すゝき　武陵

あへなく月ふ笑へて咲みを梧朗
ちよりちよと色づる舟の切火 梅間
賣ゝせぬ大佛茶をこんわりて 士朗
豆の芽のそるとかそえ鮫 鹿野
あのといへハ法名屋う上ちう 同
流のいつゝ舟ハつり出を 桂五
ウ 夏舟風岩金の舞味ゝ茶て 竹有
かゝすゝ舟蓑ふれちゝ者ゝ 朗
紅ほゝけ蓑九ふかりるふふ白い 評

ちちの仮の為あか城ゝ 同
ゝ愛へときゝ舟ふ人ゝ舟ゝ五
海舟ゝ乃紙ゝりゝりゝ 有
月のゝ兎ゝ愛を伐乃兎拓 朗
かゝゝの落ゝにゝちてこそ 野
京京を鼓衣のみゝくゝ 同
日ゝれゝしふ実のゝう咲 五
花ゝ乃しゝ毒の山のゝ人 有
ゝゝれゝて手ゝ手ゝゝ 朗
三 眠ゝゝ蝶のゝゝそたのゝく 眉
涙の隙ゝゝ桶ゝゝ由く 梧

逢やくら湖かけくらく　思ふ　白路
金を初鹿の山本くらきに　武陵
ゆくしと五月の雪の一ルくり　梧
三反くくくく　飛ちらく　門え　眉
生情と人ものれす　雲ふり　陵
土地のよこを　九品の蛙　路
多良の花のくへくも　多くて　眉
蕎くむほくの明星さくく　梧
ゆくくくふ川漁をくくく　秋の風　路
ナウ
ふの末もいけや　隱佛の泥　陵
ふくく山のくくちを　作くく米俵　梧

眠つき上るの雪ふ　雪ふ　眉
雲くるのけくくきるの茅さセて　陵
籾のくくくへ　信す　蟲　路
西くくくくく　信くくくきるの西　眉
ちや　灯と　抑くの山　吹　梧

笠の月れをかぶ一きすの笠　白路
初りや一孫しおふゆの月　赤眉
きくくるきみ　接名みを

[illegible]蓑笠折かうり

[illegible]

[illegible]なる大津の　拾朗
[illegible]の[illegible]ふ　[illegible]　武陵
[illegible]ふ[illegible]ん　[illegible]　東眉
[illegible]すけて[illegible]の[illegible]　拾朗
[illegible]の[illegible]　松の[illegible]

偶来松樹下

[illegible]　白路
松[illegible]ハ[illegible]　武陵
[illegible]

[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]の人[illegible]
[illegible]ぬ松の梢月　眺石
[illegible]に人[illegible]　仙谷
[illegible]の松の[illegible]　油丸
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　羽人

上　砂童

見ほうの[illegible]　夕霧　秀丸
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

相模集の人麿ふる歌あり　伊波
杉尾ふられそるこゝろ也日ふる　寺家
何と未こゝろ也　寝ぬ夜の月　堀園
一わゝ出ていゆくとに来る月　玉屑
そゝの日ゆくゝみ二ゝ出て花堂　イコ　樗堂
出ゝゝゝゝゝゝ上ゝり夜の月　イナハ　大芸
ゝゝ物の良ふゝゝゝ秋のゝと　如水
ゝゝ雪のすゝふ日ゝゝ春ゝ　大咏
雪ゝ山ゝ月ゝ月ゝ庵のゝゝゝ　フシコ　月化
ゝゝ山ゝ勝ゝ秋ゝゝ　葵亭
月ゝみゝ雪ゝゝゝ星ゝ

蕎麦の秋ゝ　明ゝゝ　杜　ゝ　サヽキ　流里
庶ゝ月　松ゝゝ風ゝゝゝ　蘭船
帰ゝ花　芝来ゝ　霜操
待ゝ函ゝ待ゝゝ　夜ゝ　白
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　甫城
ゝゝ蕎ゝ　新ゝ　ゝ　タヽコ　灌園
門ゝの秋ゝ　ゝ安き　ゝ　馬良
雪の山　菊ゝ　乱の　ゝみ　ゝ　巍芝
二ツより　一ツゝゆ　ゝ　孩　無楽
弱ゝふ　ゝ　ゝ　ゝ　子英
菊代ゝゝゝゝの松の琴　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]
海見えて[illegible]かえて出[illegible]史[illegible]且有
[illegible]波[illegible]は南の[illegible]ひ[illegible]夕千[illegible]橘中[illegible]物
[illegible]月[illegible]
杜宇[illegible]の[illegible]玉峨
秋風[illegible]秋の[illegible]一萍
七夕[illegible]七日[illegible]三日の月[illegible]国
初[illegible]山の上[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]梅の花 赤微 [illegible]栖 五陽

[illegible]
[illegible]
[illegible]

山路や　木の葉ふみしだく音の移　鷺橋
仮寝をひやかしし義や　紅さくら　文耿
ふきうの宿ふえ候　さくらかな　松居
行くすゑまぬ弱を深ふかき　十手
夜ぶかの月　河ふく嶋の家　国先

一言主　坂上

清雪や　一言主かく拝そろ　勅居
彦九郎とせめうのて涼ぶ　ヒセン　サヤ　二
卯の花や　枝いかれて海の色　青柔
夜の山をくりて蔦きい蔦の庵　関豊
時ぶ春と日うち過て梅の姫　内子　美雅

夜ぶか水くみのわらハ茶ゆ上　十二月　寄渕
三りくみかさねくるみ時　米彦
醤をえみ雀をまくる梅の雪　長齋
けりさみ公はいまやゆりの花　友國
さくちほく山のふさよ初　梅　百堂
彩鳥のひくみ初　朔日ぶ　尺丈
西月の表ろハうくく梅の花　吾雀
撃ち出みそくくて半宗　春友
元禄のるう俗と本くきそ　竹為
山雪の尾と志くく　ひけるぶ　蜂友
花の面かさちりて時の海　半輪

り年の木は松のまとちかう　春思
春の山　茅和
霧のしたもこのもとふる雪うす　國瑞
やをら　吸ふ　れ月もいつ　瑞馬
ゝちゝうゝ時ふるむゝゝ松柏　魚眼
蚤中は魂もわすれてうゝ時　釣翁
一日のうゝうのふを門清水　春山
丁の清山後は　春隠
掃ふ小夫ゝゝく　文鳥
半月のあゝゝ葛は峡ふ　井六
月ゝふ初り　三津人

名月の掃あゝのうゝ海のゝ　井眉
掃ゝを月のゝゝ　銀柳
面ふいゝちふゝ　月花
栄のゝ秀取ふむつゝ夫のゝ　宗柳
恵の夫の新ゝゝく柳ふ　成
一ゝいは門は京れて花さゝ　馬蹄
ゝゝ長れは人の又ゝ柳れ　雲埋
蛍成ふ這入ゝ橋の匂ゝ年　良水
橋の宗乃夫ゝれは峡ふゝ　下方
ゝ屋のいゝふ蛍ゝ鳥ふ　茅阜
這ゝゝ月ゝ屋ゝ田の君　春溯

[illegible]　盛李
[illegible]　愛香
[illegible]　東裡
[illegible]　毛拳
[illegible]　東洲
[illegible]　春屋
[illegible]　茂良
[illegible]　双南
[illegible]　在丸
[illegible]　秀源
[illegible]　尾全

[illegible]　布雪
[illegible]　其成
[illegible]　芳流
[illegible]　梅價
[illegible]　茂林
[illegible]　六磨
[illegible]　不泥
[illegible]　定雅
[illegible]　南嶺
[illegible]　土卯
[illegible]　汁雪

アラヒマレハ近ハのうへおそ
初そのふさこのかを聞ぶ　宋也
仁和寺とまりれハ梅よるの花ぶ　南岳
京ちこゝも吸波者あり　初梅　雪雄
ちり稀なれ水のうへふかあり　月峰　居然
六月雨中　この藤見ハ梅ふ　ふ嶺
うゝのちひさ紅ゝ梅の花　茶の軒
あゝこゝ中一人の来てあるるの来　杉林　麦頭
ふ待ちく仕家の秋乃ハゝゝ淡　まハり　鹿師
来ふ月雨ふ後山乃光末ふ　黄山
羽日のせいハちゝ　わくきた　方明

かゝうの月ふ乃ゝ　梅影
新法師ほとおいふ家ゝ　月庵
秋乃秋の光ふ　卧央
雪ふ出れ又ゝれ　大阜
家吸て墨実も　大蘇
家林ゝ秋ゝ　卅有
ゝふ人い一廊　墨蕉
ふふ家ふ来中　梅間
清瀧とふれ出ゝ　少汝
ようゝと如て出ゝ　桂五
林の日の春日ゝれ　岳輪

山寺

士朗

南廣

宇渡

有斐

岚外

漫々

孔阜

丘蒿

鶴守

推已

接堂

梅支

士得

猪来

仙凡

玉影

芳之

千嵩

古ちや　陽しゃくも　苔のふ　志う
初梅　ひまこそ　見ぬ時が　亜浦
ゐのゝさくれも　てゝの　末が　烏頂
殘ゝや　一つの舞　のひそうまの　雛　屋蟹子
藤ゐの花　数てゝ　紅ゐるゝ　文峯
杉風ふ　おゝれて　出ゝ　喜の月　素丁
ふ寿のさゝ　しの　末　樗ぐ　乙鶴
夷の秋の　野ゝ　ろゝれ　猫の　宇浮

二月　破路　三月

花ふゝ　日ゝ　光の　中赤
秋風や　夜ゝ　ゝ　黒山

ゝ　ゐ　の　穂　耳谷
ゝ　人　ゝ　ゝ　の　孫　東文
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　眉山
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　荒古
昼　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蕉雨
ら　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　何類
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　柳荘
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　素堂
梅　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雪芳
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　岸古
秋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　卓池

一雲日まうに さつおをせたかのふうの　木泉
ノ帰る夜や灯を消のこん　秋拳
ノ竹とろろすゝ家も菊の宿　乙一
木は陸いそうゑゆも生りし麦の穂　冥々
月ふるさつきつかへる杉まぐ　雄渕
杉原やすゝしのひるも松かせへ　巣居
ゝゝゝゝ日暮れの山ぶ　ヤマブ　の翠
月のゝゝりそゝれと杉の原ん　エト　芝彦
さゝ花や持んとすれしおまのと　一葉
四十ゝ日の雲ぬ引き沼千ぐ　文滅
所の宗や稽伊心の湯のふ　ノ且

重妻ゝ一ぬれ　稽美　巣兆
花さくや ひゝゝゝゝゝ水の筋　春樣
むの通生一日　むの宗くもう　完素
杉ゝちゝ二月の稽ゝ番ふゝう　牛心
昼ゝゝ月むゝ合せゝゝ勢きゝう　若翁

上　聖ゝゝ

云さ山も和ゝゝゝゝ花の風　美
麦風の春と吹ん 残る 川　トヨカ　太節
むゝゝ山ぶ麻宮八江の外山ぶ　サカミ　葛三
えふゝれ月ゝ逢一の山さゝ　上ヲカ　甫滴
ゝや むゝの船八出て行う麦の風　タヘハ　麦秋

名ゝやはらう上ゝ水ゝ　鳶十
砂川のちうれふ流して夜の月　由像
ゝゝゝのゆゝゝゝもゝ毎ゝ絮ゝ　寛枝
薄月の柳ふかうゝ夜ゝゝ　鯉三
美しき水のうゝうゝや夏折　め川
毎月ゐや由ゝ毎ゝ敷ゝ　卅嵐
いおゝゝのゝゝふ燈野葉樹　伊正
時ふゝゝの浪連新き角ゝ　慶く
きゝゝゝゝゝ夢ゝゝゝゝの月　野鴉
一筆ゝゝ淋さゝゝ相折　勇虎
ゝゝゝゝゝ初ゝゝ　春亭

下京や市ゝゝゝ市を慈愛　一夕舎
ゆゝ夢ゝゝゝゝゝゝ　芙屋
乗しや有ハかゝゝ夏の月　甫卅
末秀のおいゝやうふ秋ほ月　魚陸
連翹のほゝしのゝてゝゝ　風涼
夢ゝ夢ゝゝゝ　坡蓼

字ほの山ふて
山桜の峰やてゝゝ　滄洲子
すゝゝゝふかくゝゝゝゝ　魯縞
猫毒の山ゝのゝゝゝ　東逐
ゝゝゝ樣ハ情ゝもようゝ　涼平

夕立やそれより先は義の風　左鎌
紫陽花の日もかしこふきて老の坂　陶三
一村雨ふられて小舟ぐ　杜高
ふる人のなつきうけつる柳ぐ　馬雄
廣しとも秋の野辺の青田ぐ　辰義
湖岸や行もゆく京の人　五柏
山ちかくに住くすり売の風　起夫
ちかの方の水青し　東亭
夏風のゆらしなびく小松ぐ　青兵
野ゝ原ふかゝ浪ゆらおく鳥　うの女
　　魚支

のゝ外ふ動きくり　丁巳
浪さゝ寄ふ一日大根引　岡耿
蔵の矢の尾ふりかゝる鶏　亀白
稲妻のふかふ松一本　壺石
名月や人ふとゝりくふの唐　少波
名月の柳ふ垂る柳うれ　枝青
紫や世ふて鶏安ゆゝ野の夏　眠泉
水仙の香ふ案ふきほうぐ　魯州

同居

咲ことそ人も向ふれ梅の香　美瑞
ふの青月のふけ遠うう　文風

梅ノ木ニ成れる所の奥　宗吏
ちの沒の夢さめり　受て出る牡丹　斉周
うゑうゑの色を付　脱ぬ殼　田捨子
見るうらいの成るものの如く蔓の出　きよ女
うりやまきつきの志めを葉とうら反
月見やうきの水と蔓　山の京ハ郭いくめ　九扑

ぬ　き　買

ぬさ賞

何ものゝ為れるゝゝゝ神なるとい[illegible]
まきし自きしもけるゝゝゝんとハ大神のことよ
のたゝるの竹きそ年又化年素なるし
みちし杉をひたちゝゝ神話山の坊ゆゝ
とをこゝろをひしゝゝまをハ信ゝ早鹿内
縣と出ゝゝおゝ何ゝ神山何ゝの流志ゝゝ
ゝゝき山海と踏ゝ御志海なるなゝ
先をすゝゝ駿河内沖津清見ちゝ

[illegible]を第を流す 扱ゝゝ清ゝゝ 三保ゝさき清見ち
なとつゝゝ一ゝゝゝちゝれゝれゝハさゝゝとそ
杉ゝゝまゝゝれて松のゝゝし三保ゝき
きゝ清見ちをゝゝんゝせゝもいわ
かゝゝゝゝゝゝ かゝことゝハさゝゝら
間ゝ海を杉けり三保神社祝
松風ハ年ゝ 新生の芝ゝ 久能山ゝかけまくも畏
月杉をゝゝ果ゝゝりたゝゝ杉をゝゝ
ゝゝゝゝゝ 間ゝゝゝの宮居の山ハ
宮居ゝゝ杉ゝ葉を日ゝ出ゝ
ゝゝ杉ゝゝゝゝゝゝゝのゝゝし

海辺のさくらやゆうべ　[illegible]
文月河いハ思いふ物ゆ　[illegible]
日ふあひてこゝのとうゐ　[illegible]
すゆ　[illegible]
ゆ遠江乃国種松の秋きゝ山ま　[illegible]
ちゝ年の五人焼ちゝ　[illegible]
物ひいきゆ　此御神の　[illegible]
青葉千ちゝと　求る神の　三河玉す山を　[illegible]
家ふゝ川ふ出てゝ　又宗祇ふ　[illegible]
ちゝ碓の宮をうゝて　[illegible]
風来ちあゝ　[illegible]

見売ふ出ゝるすゝ春のゆゝへふ　卓池
坐ふの紀井ふ持ゝ
友の月笑ゝつゝゝてゝ人のゆ　岱苦
笋のちゝ物ひ多ゝ　秋拳
稍素ゆ　秋の下乃多島　浙江
五百時ゆ　田ふ上ゝ　松の垣　接豊
ゆ年ゆ門の　桜の五ふ人　月船
ゝゝ乃ゝゝふゝ　秋日ゝ　夾嬢
ゝふ家の宛紀の色心青ゝ　松乙

方斛　太弟
幽嘯　亀老
國村　也久
有圭　湖中
五来
紋来

初冬　和平と　樹ろ　淺水
擊ち　老と　ろ　中　苦の　小二

高野

晴り　十　会うけうの　方の　雉承
嘯つも　ろそ　枯　ろく　弱つ　ろ　相栖
笑の　門の　ろ人　ろ　聴　ろ　野松
稲毒の　足ろ　ろ　松ろ　玉河
時　きく　者　我　のよ　廿　女堂
文衣　宿　つ　の　咲　ろ　葵亭
足　ろ　ろ　青　ろの　中の　梅　鷺白
四　ろ　ろ　ろ　仕　ろ　ろ　木甫

尾張名古屋かうの五雄が家樹老人
の庵にて
枇杷園が長りすゑ駿河路遠江の白
汐畑が雪　帰る夫の面　有斐
我が家のきりぎすなきぬ　士朗
鞠壺が月はかたれて舟まいは木瓜咲　五雄
初月を刈りかたれる　斐
海ぐさが早さの波るまの落　朗
松わかさうの秋の夕きく　雄
砂川の口まうの新とへる日不　斐
たうらの松の高が　朗

拾ふの家ともいうんかな　拾
むうい合て今津迄　雄
蛙が青帰るれば法ふつう　岳
猫の恋紅葉のすゑ月うけ　斡
人八帆ひ海八ゆまく栽桔梗　雄
巧ものそなれ半まうが　朗
むるが古きゑのうの折が　絡
花の中住ことと舟と淺ふ多　斐
坪野山が三度の月生八等素　朗
三　くそあう凡中の高ゑ　雄
ゑりしと法界門のゑゑ建　斐
　　絡

水のこゝろを望む　板の美　雄
一ハうゑ〳〵ふ出せハほゝきゝ　桂五
実ふ自慢のつゝし明る　終
生焼の蛇ふ膳を並べ　朗
ふゝと打ぬ　ゝう沢の波　五
芋ふ輔の岸まふ風も見ぬ　製
翌ハ〳〵ゝり乃果ゝ油火　雄
入ず　細き徒とゝゝ　軟
ゝやかへらんふ　の息　朗
ゝゝゝ志賀ハ木のゝゝ　雄
涙しゝゝん　ゝんて芋のゝとゝ　製

ナウ
夕くまハ児宣ゝゝ小神桂　朗
附ゝてゝゝゆく猪乃　終
玄猪ゝと取ゝ門ふたのゝ　製
大内ゝゝりの風くゝゝ　雄
樫の木ふ降ゝゝほゝ〳〵むゝ　終
ふゝゝやゝけふ巣と作ゝ　製
席上一代ふゝゝり去
候出ゝと月ゝもゝゝ桜ぶ　桂五
夷ふ拝のゝつゝを美のゝ巣　岳終
帰ゝて芋ふゝゝりゝ　士朗
明ゝゝ乃ゝ　ふゝき

はの[illegible]や　殺生禁断　梅の花　五雀

甚目寺は祐厳の造営にして桃源寺と号す

きしうるまるかうひうるの[illegible]　天王

御[illegible]　閑の古跡　[illegible]

[illegible]ひよせるる　今日ふるの[illegible]　[illegible]

伊勢海　海士の苫屋　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

外宮　[illegible]

内宮　松橋霍の[illegible]

清[illegible]　[illegible]　二見の浦　[illegible]

天の岩戸　[illegible]　[illegible]　松田[illegible]

の地蔵　徳田[illegible]　[illegible]

月さえや　七夕　[illegible]　霍鳴

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

松橋の又　[illegible]　[illegible]　南江

[illegible]の夷が[illegible]　[illegible]　丘高

松田筆記中

家[illegible]の花のちるひう山　文角

木母寺の[illegible]　[illegible]　玄蛙

風の夜すうらひうら　枯木が　對竹
ふるりふるふる月の出るうらぶる　芳之
舟の波熟ゆるうらうらうらの中　烏以
ゆらゆら息とゆらせ　ゆらり　花の中　弓雄
月の秋のようりかまうら　掛の玉　耒耜
影をはは森らるゝ　哲中　かんこう　蓬宇

立博師

立月しらそうあるうは森も咲　栗里
桃屋ふ時も高あるうら帰るう　蕉雨
鶯の声　掃ゆうつゆうちう　武陵

蕚の形ゆのもなるなる火掛が　鞍凡
ゆゆ山もうるふ青む　ゆうゆう　其笛
ゆゆ方の手とゆうゆ　女ゆ　伊頼
ゆ紙　時とゆゆうゆ　朝末　紅　篤光
ゆゆ　切ゆうきのゆゆるるゆ　蔦女
手和月のゆゆうゆゆ　門　延　可省
蕚ゆと高まゆを蕚のゆゆ　乙二
夏の秋と紙まゆゆゆ山の奥　有篁
蕚ゆ蕚ゆ芽紙の月のゆゆ　魚心
山陰中　時鳥　水のゆゆゆ　春唄
山里中　五月雨ゆゆ蕚の家　葛三

[illegible]

葉の中　左琴

戸とぢけてきもの色はや時雨　一左

まつのかすかにしの中　猫の足の渡　乙堂

越うきすすきの神垣清足してふるこの牡蠣

ちりうへの黒船や翠川八股屋桂己と行く

蓋の月四方一の蓋の浅みより　翠川

蓋ふかうち秋ふかうちりの橋うる　椎己

ふるに黒船屋ふるきもの[illegible]されてふるとはいつ[illegible]

伊賀越ふかりて[illegible]伊賀と[illegible]伊賀

西[illegible]中侍人[illegible]者の去りしくつの蓋の秋

[illegible]墓中蓋瓢井蓋興彦西廉彦事藤彦

ハそハ[illegible]ういさ[illegible]う田園を名[illegible]

今[illegible]瓢井彦[illegible]ハ往昔元禄年の伯去

昔稜[illegible]

燈籠や雪乱うる笠　苔路

[illegible]日の[illegible]いと[illegible]や[illegible]の浦　士得

[illegible]の[illegible]りや屋根の[illegible]　芋窓

[illegible]ふかうりぬ[illegible]ふ[illegible]ハ[illegible]き延[illegible]

いうぬ[illegible]　[illegible]しとうこ[illegible]て三[illegible]

[illegible]さや[illegible]とみつ[illegible]　精沢の池[illegible]の[illegible]

水[illegible]の[illegible]影の[illegible]

新座敷徳座敷と清人

[illegible]　杜口
山吹の雪も流と乱れ　左禽
大和道へ[illegible]　綻駕
永き日乃遊び之勢　田のそら　梅龍

初鰹ふまわりぬみなく[illegible]　初の挑みな
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

天[illegible]
[illegible]
[illegible]
松田[illegible]

[illegible]の門田をフの夫婦ぶり　竹林
一抱も月あれ水をなるうり　米彦
[illegible]の[illegible]　何[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　三津人
[illegible]
日の入[illegible]　[illegible]　春人
[illegible]　[illegible]　釣翁
[illegible]と[illegible]　外流尼

世ちくさの住をすむやく〻の秋　魚眼
世〻をりをこそ〻ゑやゑ女ゑ〻　魯隠
降〻〻〻雨月の姫松霜の下　長森
神無月ふりつゝ紅葉〻〻〻　鵞雪

神無月月出井

まゝ〻夜の月ゆ麻しき井田ゆ　柳荘
袖ゑ〻神や今ゑん袖訪の御　微席
鶴鳴や鳴〻〻めこゆ〻るの上　牛後
〻〻〻〻や鳴の〻まし〻ゑ〻〻〻〻　吐丈

志〻〻や仮の宿〻〻　掾乃宿　叢雄
志〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　玉屑
家〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　雄渕
卯月ふゆ蕨の巣立　山京ゆ　介亭
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　木海
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　素口

卯月

浅川紅葉　昔ろ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

笠亟の紙ハいてみ寺くさる　李
かんこそ小と南ホ孔歩り　髮
袖乃下くゝ赤うゝえ今り　青
ホ著ホ乃のゝ中ろ　李
山名夏長ホ　ゝ　ゝ　机
除て寺ホ白いさうく　雪
野田の小橋ゝ状むろひゝう　髮
一生と彩のゝ　ゝ義　机
ほつりしゝ蓋さ紀出留　李
花のゝ大ゝ　ゝ　髮
ゝれ寺の阪のゝ出吳遠　雪

菊今ゝ漫続中

美ゝ扶中我勝ゝ月来る　六書
ゝ　旅乃ゝと　ひゝう扶のホ　素丸
菊の花乃亟ん　ゝ　巣兆
十五夜ゝ今て藤今中秋のる　みち彦
稀乃中ゝ宵ホ　ゝ　雪岡
ゝ扶日も扶菊　ゝ　一々
ホ梅中紫と　ゝ　仙李
ゝりゝと所中　ゝ　美蔓

きゝくらして好くちりぬる郷　月居
撃ちいとつふあるやは松葉掻　布雪
笠めをりの寄りの行ふりお摺をき　蒼比
時うゝ人暮くゝむけ　時雨　其成
ゝくゝや春の　おうめ　彩日　茂比
指ゝくゝうゝお霞はりあの家　得終
まくゝや小梅ゝ　咲の皮　雪雄
くゝとゝ日もおくゝりて雪の袋　春幸
矢葉ゝ柔と　ほくゝ　成美
雪ハ雪ふ井　出されてやかの風　七翠
十月中さゝハむの木くゝり　梅生

井ゝ五や月の硬くゝ　論之
新の名残も旅の名残　若人
あゝくゝ　ふくゝくの　其齢
一面ゝくゝゝ　国とくゝくゝ　素蘖
雪て降ふちんくゝ　木雪　と　田年
彩彩新雪降ふくゝ　俗のかれる
人と彩ひて雪の俗　悲しき　さくゝ
きのくゝも　ゝ　を　夷　の　若人
竹出て　ゝ　成や　夷の　其齢
夜妙祝ゝくゝ　ゝ　長く　素蘖
彩亀のくゝと　ゝ　夷の　田年

清親の夜桜

勝部や　雪を忘れぬ野の梅　有斐
咲もまつ　乳這ふころ　素堂
桜の木の主　すくなかふ葉を出す　美又
ちやうし　明の月　朝の月　松乙
うつうつ　心のすこの月のみ　堂
薪さうれい初　咲　斐
腹やうつ　ふるくの雪とはまぬ　乙
白雪　初りろく　人
おやまるふ　彩の月　月　斐

美とうつうつ　赤　濡ぬく　堂
かうつ　表さい　身ふ　殘ふうん　人
越　初　四　逸　ふ　乙
同　ふ　の　木　撰　ふ　ぬ　月　拭　逸　堂
沙　美　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　月　拭　逸　斐
砧　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　初　枕　の　芸　乙
美　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ふ　ふ　ふ　ふ　人
花　の　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　伊　賀　の　字　乃　名　斐
乃　伏　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　三　十　乃　逸　堂
ふ　の　ふ　ふ　ふ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第三中 陸奥

清佛寺にて掃部助宿 有変久孤
日光山 [illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

種の梨つぼ初てめづらしく、
新しうさく宇佐の宮奴　婆
菓子作り嵐もさるふ百三日　狐
庵ゝ　晴ゝ上えの望　中
三月　饗の宴おとゝしみめて清ゝ　作
起てゆゝしい中ゆゝしつゝ　婆
窮屈な気の只ゝ作ゝ食の後　作
いとも中ゝきほとゝ初ゝ　婆
入梅のあゝ空ゝとゝ法　作
夢は涼ゝ田の中ゝ川　婆
時雨ゝうゝ速とゝれて　作

青きゝ空ゝとゝ着てゝ着て
行ゝれゝゝ空ゝ雲ゝ行ゝれ
紅葉ゝ中ゝを神ゝ久ゝ宮ゝ　婆
琴ゝ口ゝ月の日の積ゝう　作
れゝとゝ糸の絲ゝれゝとゝ　婆
此中ゝ小誰もすゝき紙四姫　作
よゝ霞青とゝうゝれて来ゝ　婆
れゝゝ長さ行ゝ水ゝゝ婆　作
ゝゝ長ゝ中ゝ城ゝ春　婆
末ゝ代て花の中の一ゝ　作
小ゝゝき結ゝの智ハ立ゝ　婆

月清し　光の鬼の角のフユ　真弓
切雲とそろふ人とそろふ時雨　山翠
春雨の一ふしに匂ふ菖蒲　箕由
冷しもやや苔の乾くなり　太圭
ふるふ月を稚て帰る　樫木乃　方居
夕立やよりくしうれハ相壹　石口
ふるふ月ふるふて来ふる葉の匂ひ　五来
秋示男の鼻ふるふる松の風　多鳥

切年の支やはる支　卯　亀長
ふるふ雪の中の小松や法師の跡　玉水
京てふふる蕭さへ中比取山　物家
芭蕉ふふふふふふふふ麻の影　橘方
夏の秋の雲のやむや　芝の宿　渚水
流時宿り寝さえて多和月　志恒
清俳や流れてやう山　鳥　小海
七夕のちきりうれてなの家　玉親
十ふふう時ぼ　きみふふ乃　一作
麻の白明やふふ松ふふ　亀石
稍紅とつふりうれハ三方のふ　久凱

雪おのの日やかしましき峰の松　漫々
形ちまゝ目おれちるや我木兵　艸九
麦畑ゝ牡丹おほの又ゝ々ゝ　藻孤
ゑ紀日記の月　初〳〵　れ　一雪
り形ちかゝおもしあれ〳〵　桂文
時雨消ゝゑ〳〵ゑ〳〵ゑ　椎村
ゑ鍋かせハのゝる葛籠の百ゝ　巴岡

睦〳〵十三百　發句
三月　二十日　序者　有聲